
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより第211号(通巻第278号)

2024年4月26日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、変更しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

*****コンテンツ一覧*****

- 着任のごあいさつ
- 令和5年度 ICT支援学生 活動報告
- 「第1回やまなし情報教育推進室フォーラム」開催報告
- R6年度版「地域学習アシスト事業」紹介リーフレットの報告
- 山梨大学教師塾プロジェクト2024～2025 『ACTION PLAN』配付の報告
- 「令和6年度 期間採用者等研修（スキルアップ研修）」のご案内
- 「令和6年度 子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会」のご案内
- 6・7月の主な行事予定

■ 着任のごあいさつ

令和6年度は、教育実践研究部門および教育支援部門・室にそれぞれ2名の客員教授、県との交流人事による実務家教員1名、情報教育の専任教員1名、事務補佐員1名を迎えました。

教育実践研究部門（兼 教職大学院 客員教授）小林 智

本年度よりお世話になっております小林智と申します。令和6年3月31日をもって、山梨県立青洲高等学校校長を最後に、36年間の高等学校の教職生活から退きました。これまでの学校現場や県教育委員会等での様々な経験を、教員を目指す皆さんに伝え、少しでも教壇に立つことへのお手伝いできれば幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

教育実践研究部門（兼 教職大学院 客員教授）三井 正彦

本年度からお世話になります、三井正彦と申します。昨年度まで甲府市立大里小学校に勤務していました。微力ですが、本学のために一生懸命がんばりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

教職支援部門（教職支援室 客員教授）玉島 正隆

本年度より、教職支援室でお世話になります玉島正隆と申します。市川三郷町立市川小学校で定年退職後、暫定再任用で山梨県教育委員会義務教育課に勤務しておりました。教職志望の学生のために、よきサポートができるよう微力ながら力を尽くしたいと思います。何卒よろしく願いいたします。

教職支援部門（教職支援室 客員教授）有賀 望

4月より教職支援室でお世話になっております有賀望と申します。昨年度末に役職定年を迎え、北杜市立高根西小学校を最後に退職いたしました。微力ではありますが、教員を目指す学生のニーズに応じた支援を心がけ、学校現場に即応できる人材育成に努めて参ります。どうぞよろしく願いいたします。

教育実践研究部門（兼 教職大学院 教授）萩原 佳子

本年度より、附属教育実践総合センターにお世話になります萩原佳子と申します。公立中学校現場での勤務経験を生かし、実務家教員の一人として、皆様のお役にたてるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

教育実践研究部門（専任教員 准教授）稲垣 俊介

みなさま、はじめまして。センター専任教員として、また、昨年10月に開設された「やまなし情報教育推進室」に所属いたします稲垣俊介と申します。昨年度末まで、東京都立高校で情報科の教員として教鞭をとって参りました。これまで現場教員として培ってきた実践や研究が、少しでも皆様のお役に立てることを願っております。よろしく願いいたします。

教育実践総合センター事務補佐員 内海 香奈子

この4月に附属教育実践総合センターの事務補佐員として採用されました、内海香奈子と申します。事務的なサポートを通じて皆様のお役に立てるよう、微力ながら精一杯努力してまいります。ご指導のほど何卒よろしく願い申し上げます。

令和5年度 ICT 支援学生 活動報告

やまなし情報教育推進室

学生が附属小中学校へ「ICT 支援学生」として赴き、ICT 活用に関するボランティアを行う事業が令和5年度から新たにスタートしました。大学の授業に留まらず、学校現場で ICT 活用について学び、実践を積み重ねていくことを目指しています。

学校や地域の ICT 活用の促進者としての素養を身につけられるよう、ICT 支援学生には派遣前や派遣中に研修会を実施しています。研修会では端末の基本的な操作スキル、児童生徒への接し方、ワークショップの実施方法等を学べる体制を整え、学生自身が力を高められるようにしています。また、クラウドツールを活用して学生と教員がコミュニケーションをとったり、派遣中のリフレクションを相互に参照できたりする仕組みを構築しています。

ICT 支援学生は、児童生徒の端末操作の支援、各種設定作業の補助、端末の更新作業、休み時間の端末活用の見守り等を実施してきました。

令和5年度の活動の様子をご紹介します。

1 学生募集期間 令和5年7月から8月

2 応募学生の所属と人数

1年生 3名（言語教育コース2名、生活社会教育コース1名）

2年生 3名（科学教育コース1名、言語教育コース1名、生活社会教育コース1名）

3年生 5名（幼小発達教育コース3名、科学教育コース2名）

大学院生 1名（統合応用生命科学専攻）

計 12名

3 派遣前研修の日程と内容

派遣前研修 全8回

第1回 9月19日（オンライン開催）

自己紹介、Google Classroom の使い方、学校現場における ICT の活用（講義）

第2回 9月22日（オンライン開催）

授業場面での ICT の活用（講義、ディスカッション）、共同編集の方法（演習）

第3回 9月26日（オンライン開催）

ICT を活用した授業動画の視聴と感想共有、クラウドツールの使い方（演習）

第4回 9月29日（オンライン開催）

共有リンクの設定方法（演習）、検索ワードの指導方法、タイピングスキルの支援

第5回 10月4日（対面開催）

1人1台端末を活用したレクリエーションの実施方法（演習）

第6回 10月12日（対面開催）

ICT 支援学生としての振る舞い方、学校現場で活動する上で留意すること（講義）

第7回 10月30日（対面開催）

活動中のリフレクションの書き方、Canva・Padlet の使い方（演習）

第8回 11月8日（対面開催）

附属小中学校での活動の流れ、留意点（講義）

4 派遣期間

令和6年1月から3月まで

- ・活動日を週に2日ほど学生が設定し、1回2~3時間ほどボランティアに従事した
- ・附属小学校と附属中学校の両方のボランティアに従事した学生がほとんどであった

5 派遣中研修

派遣中研修全1回

2月16日（オンライン開催）

派遣中のフォローアップを目的として、活動内容の具体や困っていることを学生から出してもらい共有をした。その後、学生が困っていることについては教員からアドバイスを行った

6 活動の様子



■派遣前研修の様子

派遣前研修の前半は夏休み中ということもあり、オンラインで開催した。学校現場におけるICT活用の考え方について講義を行ったり、ディスカッションを行ったりした。夏休み終了後は昼休みを使って対面で研修を開催した。実際にパソコンを操作しながらICTの活用について体験的に学べるようにした。1回の研修は30分~40分程度であった。



■派遣中の様子

学生は附属小中学校の教員と共有しているスプレッドシートを見て、自分が何年生の支援へ行くのかを確認してから活動に入った。スプレッドシートには附属小中学校の担当者からの連絡や校内の予定等が共有されていた。

小学校では端末の操作支援や児童が端末を使って発表する際の聞き手になる等の活動が多かった。中学校では端末活用の見守りが多かった。



■情報共有の方法

Google Classroom を使って研修資料、連絡事項、スケジュールの共有を行った。附属小中学校でも使用しているツールを用いることで、学生が操作に慣れることを意図した。

また、活動に行くたびに学生にリフレクションを記入してもらった。このリフレクションはクラウド上で共有されているため、教員が把握できるようになっている、また、学生同士も互いのリフレクションから学べるようになっている。

7 ICT 支援学生としての活動を振り返っての感想

- ・小中学校で生徒と関わる機会を通じて多くを学ぶことができた。授業での ICT の活用のされ方や現場での課題点など、支援学生として関わったからこそ学べたことがたくさんあった。
- ・学校現場で ICT を活用していくためには、教師がラベル貼りや端末の更新作業などたくさんの準備をする必要があることを体感できたことがよかった。授業では、私が受けてきた中学校の授業からは大きく変わり、ノートは紙ベースでなく端末でメモしている姿を見て、教育現場は常に進化しているのだと思った。
- ・学校現場で ICT 活動を支援すると共に、実際の使い方を知ることが出来た
- ・自分は受けてこなかった 1 人 1 台端末の教育が実際の教育現場でどのように行われているか見ることができ、この先活かせるようなことを沢山学ぶことができました。
- ・学校現場での ICT の活用を実際に見ることができて、これから ICT を活用して授業できる教員が求められていることを実感した。また、元々 ICT は苦手意識があったが、今回のボランティアを通して能力がちょっと向上したし、これからもっと活用できるようにしたいという思いがでた。
- ・私は、小学校高学年を担当していたため、使いこなせる児童がほとんどを占めていたので、直接的な支援をする機会が少なかったです。しかし、授業での使用方法を見ることができたため、とても勉強になりました。
- ・実際に児童・生徒が ICT を使用している姿を間近で見て、使用の実態や ICT の長所、使用する上で大切にしなければならないことなどを考えることができました。特に休み時間に生き生きとタブレットを使用している姿を見て、ICT 機器が子どもにとって身近なものになっているのを感じると共に、この姿を授業でも見られるように授業を構成することは必要なことだと考えました。子どもたちが使えていたため、操作の支援に入ることとはほとんどありませんでしたが、貴重な体験になりました。ありがとうございました。
- ・中学校での活動だけだったので、事前研修で行ったような ICT 機器の使い方を教えるといった活動内容ではなかったが、キーボードの点検など一人一台端末を使うために必要な裏方の仕事に携わることができ、子どもたちがタブレットを満足に使えるようにするためには使い方がわかっているだけでなく、使える環境を整えることも必要だとわかった。

ICT 支援学生は昨年度からスタートした事業です。さらにより事業になるように今後も工夫を重ねていきます。

やまなし情報教育推進室では、ICT 支援学生の事業を企画・運営し、ICT 活用の理論と実践を兼ね備えた教員の育成に尽力しています。

■やまなし情報教育推進室 Web ページ

<https://www.yamanashi.info/>



山梨大学 やまなし情報教育推進室

Yamanashi Informatics Education Promotion Office

第1回やまなし情報教育推進室フォーラム開催報告

やまなし情報教育推進室

令和6年3月18日午後6時から午後8時まで第1回やまなし情報教育推進室フォーラムが開催されました。山梨大学甲府西キャンパスJ号館A会議室及びZoomを使ったオンラインのハイフレックス方式での開催となりました。

やまなし情報教育推進室は、山梨県をはじめとする小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の情報教育の一層の充実と振興を図るため、山梨県教育委員会と連携して令和5年10月1日に教育学部附属教育実践総合センター内に開設した推進室となります。その推進室が主催する記念すべき第1回目のフォーラムでした。

今回のフォーラムは、「情報教育の現在とこれから」と題し、小・中・高校の情報教育の系統生を考える内容で構成されました。我が国の情報教育をリードする中野由章氏（工学院大学附属中学校・高等学校 校長）を講師に迎え、情報教育の最新動向についてご講演をいただきました。また、山梨県教育庁高校教育課の取組紹介、小・中・高の実践発表、パネルディスカッション、ICT支援学生の活動報告など盛りだくさんの内容で充実したフォーラムとなりました。



■講師 中野由章氏の基調講演

情報教育の充実へ向けて、小学校、中学校、高等学校の各段階でどのような力をつけておくべきかといったことについて、具体的にお話をいただきました。また、高等学校で必修教科となった「情報Ⅰ」が目指すこと、大学入学共通テストへの導入に向けて準備すべきことなど、最新のトピックを織り交ぜながらたいへん分かりやすいご講演をいただきました。



■やまなし情報教育推進室の活動紹介

長谷川千秋推進室長から、やまなし情報教育推進の設置背景や活動内容について説明を行いました。推進室では、高等学校「情報」免許課程の新設、1人1台端末の活用指導力向上のための研修や指導、オンライン研修コンテンツの開発と展開、今回のようなフォーラムやWebページを通じた情報発信等を行っています。



■山梨県教育庁高校教育課の取組紹介

三枝和博指導主事から、高校教育課では情報教育の充実へ向けてどのような取組を行っているのかについてご紹介いただきました。

民間企業が開発したコンテンツを用いた授業の実施、県内企業と協働したプログラミングツールを用いた問題解決型授業の開発、教員研修の充実等多くの取組を行っていることの紹介がされ、参加者の興味をひいていました。



■ICT 支援学生の活動紹介

ICT 支援学生とは学生が附属小中学校へ赴き、ICT 活用に関するボランティアを行うもので、令和 5 年度より新たに始まりました。学校や地域の ICT 活用の促進者としての素養を身につけられるよう、派遣前や派遣中に研修会を行っています。

この ICT 支援学生の活動に参加した学生から、現場でどのような支援を行い、どんな学びがあったのかについての報告がありました。



■パネルディスカッション

多田早菜子氏（甲府市立中道北小学校）、雨宮友久氏（甲州市立松里中学校）、稲垣俊介氏（東京都立神代高等学校）、三枝和博指導主事をパネリストに迎え、講師の中野先生のコーディネートでパネルディスカッションが行われました。

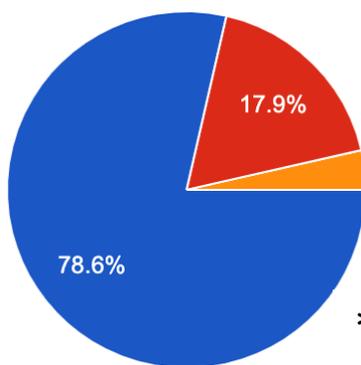
まずは小・中・高校のそれぞれの校種の実践発表を行い、その後発表をもとに情報教育の系統性について深く掘り下げる議論が行われました。校種の接続を意識した基礎基本の積み上げの大切さを改めて認識する内容となりました。

【参加者へのアンケート結果】

●申込者数 108 名（対面参加 22 名 オンライン参加 86 名）

●アンケート回答者数 28 名

① 今回のフォーラムの満足度を教えてください



1 満足した	22 名 (78.6%)
2 まあ満足した	5 名 (17.9%)
3 どちらともいえない	1 名 (3.6%)
4 あまり満足しなかった	0 名 (0%)
5 満足しなかった	0 名 (0%)

*96.5%の方が満足した・まあ満足したと肯定的な回答

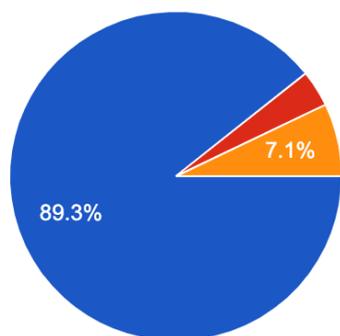
② ①の回答の理由を教えてください（抜粋）

- ・山梨県の取組の具体を知ることができた
- ・情報教育の状況が理解できた
- ・情報教育を系統的に考える機会があまりなかったののでいい機会になった
- ・理論的・実践的な内容でとても有意義な時間になった
- ・使えるネタが多くあったため、本校の教育活動のヒントとなった
- ・小中高で育てる資質・能力の系統生を知ることができた
- ・全体的に議論がふわっとしている印象を受けた

③ 今回のフォーラムに参加された感想を教えてください（抜粋）

- ・時間があっという間の盛りだくさんな内容でした
- ・学校現場と県と大学の連携が素晴らしいです
- ・このようなフォーラムがついに山梨で開催されたかと思うと嬉しいかぎりです
- ・自分が学生だったときと大きく変わっていることを感じた
- ・山梨県内の小中高の情報交換のネットワークの状況が少し垣間見えたと思った
- ・パネルディスカッションをもう少し聞きたかった
- ・高校での情報の扱いとそこに至るまでの小中学校での取り組みが大事なことを学んだ
- ・系統的に考えていく必要性を感じた。一方で小学校段階でどこまで鍛えるのかについて考えていきたい
- ・貴重な講話やパネルディスカッションによる学校の実践例、情報教育のこれまでの変遷、学校現場や行政に求められていることを知れたことがよかった
- ・中野先生のお話はとても参考になりました。高校の情報についてもすべきことが見えてきたように思います。定期的にこのようなフォーラムを開催していただきたいです
- ・オンライン配信もよい面はあるが、やはり自分は生の声が聞ける会場参加がよい。対面の機会も残していただけにありがたかった

④ 今回のフォーラムの時間設定（2時間）について教えてください



1 適切であった	25名 (89.3%)
2 長かった	1名 (3.6%)
3 短かった	2名 (7.1%)
4 どちらともいえない	0名 (0%)

⑤ やまなし情報教育推進室のフォーラムで今後取り上げてほしいテーマを教えてください

（抜粋）

- ・教育での生成 AI 活用
- ・ICT を活用したこれからの授業づくり
- ・高大連携で先進的な高校（山梨以外）の実践例
- ・データ利活用の進んでいる自治体のお話
- ・教科としての取り組み、教科等横断的な取り組みの具体例
- ・情報モラル教育
- ・小中高連携の事例
- ・情報Ⅰのプログラミングの指導例

やまなし情報教育推進室では今後もこのようなフォーラムを開催していく予定です。
最新の情報は WEB ページからご確認ください。

<https://www.yamanashi.info/>



■山梨大学教育学部 R6 年度版「地域学習アシスト事業」紹介リーフレットが完成しました。

本学部の教育ボランティアの発展形として実施している「地域学習アシスト事業」の紹介リーフレットが完成しました。

「地域学習アシスト事業」は、令和元年度からスタートし、地域の学校と本学の学生（教育学部生・教職大学院生）及び大学教員が、学校の教育課題を共有し、協働して解決策を探りながら、当該学校の教育活動を支援することにより、学校が抱える教育課題に対応できる実践的な能力を身につけた教員養成を行っていくものです。内容をご覧いただき、引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

地域学習アシストとは？

- ◆ 山梨大学独自の取組として、令和元年度にスタートしました！
- ◆ 教育ボランティア活動の発展形としての性格をもっています！
- ◆ 学校の実情に応じ、より良い教育の実現を図ります！

【令和5年度 活動例】

- ✓ 大学生と大学教員が小学校のクラスに入り、担任の先生と方針を打合せたり、見とったことを報告したりしながら、大学生が個別支援の必要な子どもに対して学習支援を行いました。
- ✓ 毎回の活動後に、大学で、大学生、教職大学院生、大学教員が「チームカンファレンス」を行いました。子どもの行動の分析や、子どもへの関わり方について意見交換を行いながら次に活動する際の方針を考えました。

令和5年度 アシスト活動を終えての声

大学生

現場の実態に即したアドバイスやお話を伺うことができ、自分の知識を深めたり、広げたりすることができた。また、カンファレンスがあったことで、疑問点をそのままにせず、その日のうちに解決し、次につなげることができた。

色々な立場の人から意見を聞くことで、多角的な考え方を取り入れることができ、支援に活かされた。通年で同じクラスなので、カンファレンスでアドバイスいただいたことを次の週に活かされた。

大学院生

より現場に近い現職の院生、理論的な観点からご指導くださる大学教授、大学生にとって一番近い立場にあるストレートマスターと様々な立場の人たちとカンファレンスを行えるのは学びがあって良いなと思った。

学生たちが教室で直面している問題に対して客観的な立場から状況を考え、対処法などを考える事ができ、現場に戻った時も自分自身の教室で起こっている問題に対して客観的に考えることができそうだと感じる事ができた。

学校

学校内ではないかたが、子どもたちの学習や活動を支援していただく中で、学校職員とは違った視点で成果や課題を感じ、学校に返していただけることはとても成果だった。

学生が児童の特性に応じて、積極的に児童に関わってくれたので、学生と児童の関係性はとても好ましい物だった。良好な関係性の中で、学生からのアシストが児童の成長につながっていると感じることができた。

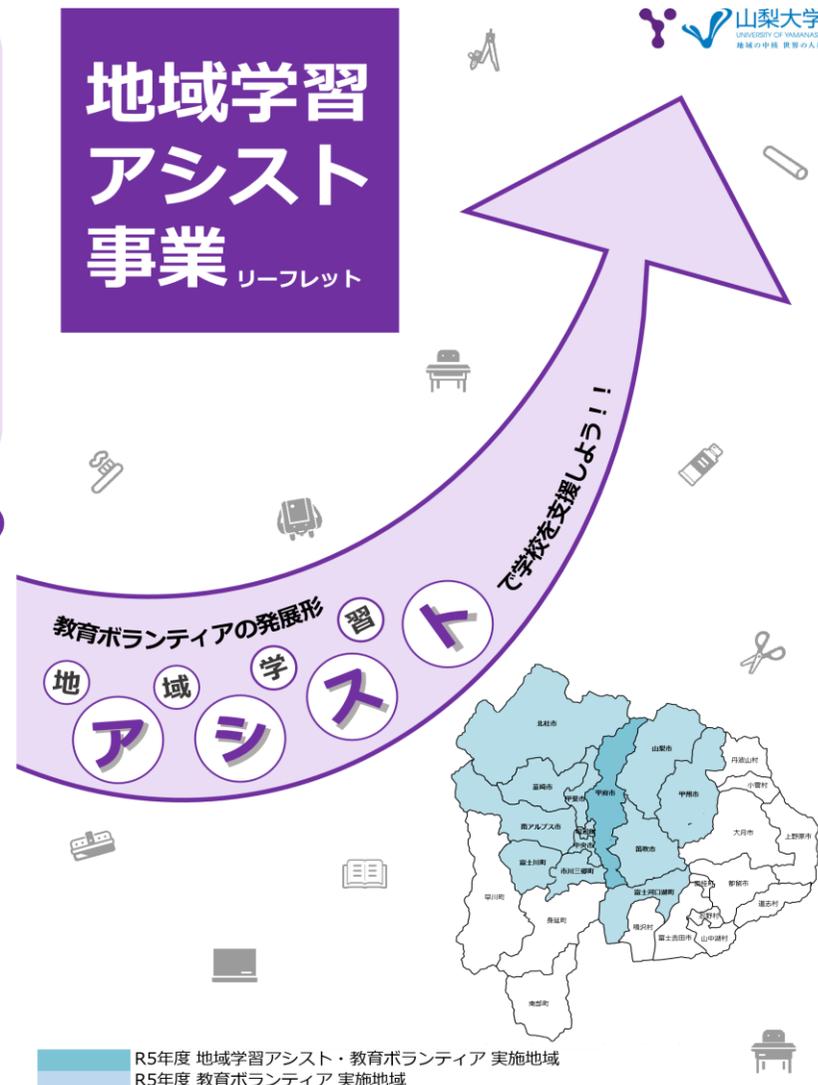
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター 教職支援室

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
TEL.FAX : 055-220-8748
E-mail : edu-kys@yamanashi.ac.jp



地域学習 アシスト 事業

リーフレット



R5年度 地域学習アシスト・教育ボランティア 実施地域
R5年度 教育ボランティア 実施地域

地域学習アシストで実践力を身に付けよう！

- 学校に応じた課題に取り組み、「チームカンファレンス」を通してその課題を解決することを目指します
- 教員採用時から長期にわたり活躍できるように、大学生が自分自身の目でクラスの中の課題を見つけ、課題解決に向けた取組を行うことで、実践力を育てることを目指します



アシスト活動を通して
先生になるための実践力が
身に付きました

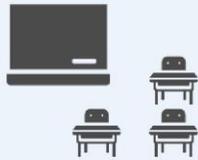
アシストチームで チームカンファレンス



アシスト活動Bでは、

- 大学生・教職大学院生・特別支援教育特別専攻科生・大学教員等から構成されている「アシストチーム」を編成します
- 大学生が学校でアシスト活動を行った後に、その学校の課題解決に向けて、専門的な視点から分析・相談をするための「チームカンファレンス」を毎回行います

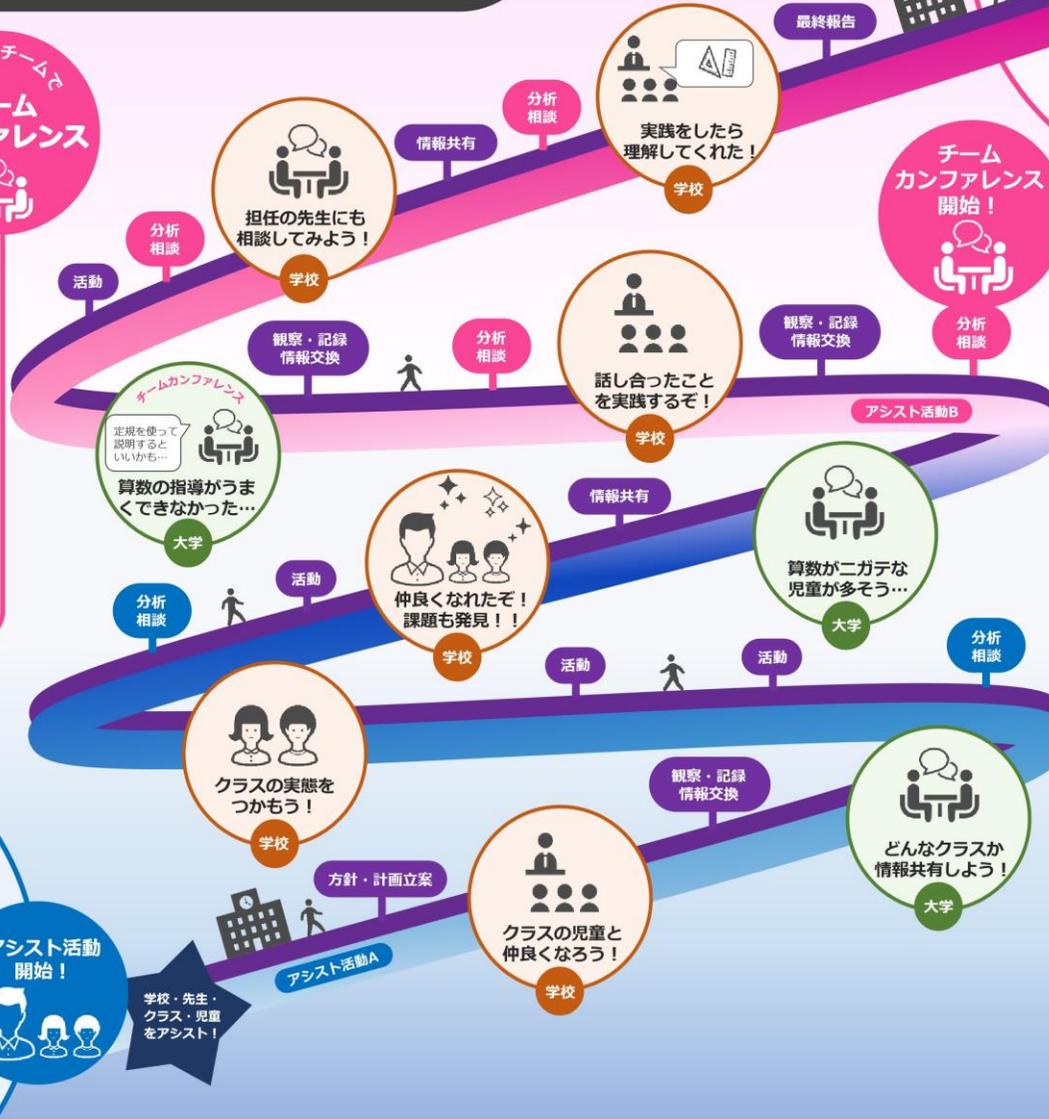
毎週同じクラスで
児童の支援や課題解決に向けた
取組を進めていきます



アシスト活動 開始！



学校・先生・
クラス・児童
をアシスト！



アシスト活動B

11月～2月頃

- アシスト活動後に毎回アシストチームとチームカンファレンスを行います
- 学校の課題解決に向けた取組を行い、実践力を身に付けることを目指します

アシスト活動：計11回
チームカンファレンス：計12回

アシスト活動A

6月～10月頃

- 学習面や生活面等の支援を行いながらアシスト先のクラスの実態をつかみ、児童や先生たちと信頼関係を築くことを目的として活動します

アシスト活動：計12回
カンファレンス：5回



1年次

教育ボランティア

1年次～4年次

社会参加実習としての単位認定もあります。

*2年の後期に小学校で課外と学童の補助のボランティアに参加しました。初日はとても緊張しましたが、私の緊張なんて知る由もなく、元気一杯に「先生！」と駆け寄ってきてくれる子どもたちの姿に、自然と笑顔になりました。両腕をこれでもかというほど引っ張りながら「遊んで！」と言ってくれる子どもたちに、時々ひきつった笑顔になりながらも、心の中では嬉しさを噛みしめて、活動することができました。(言語教育 R.O)

*1年の後期に母校の中学校で初めて教育ボランティアに参加しました。対象が中学生だったため、思春期特有の距離感に何度も心が折れそうになりました。まずは小学生の距離感で癒されておいた方がよかったのかも知れないと何度も思いました。でも、慣れるに従って距離が縮まり、中学生と話している時間が楽しいものになりました。少し生徒理解ができたかなと感じています。(言語教育 N.K)

こんな活動にもチャレンジ!

◆ICT支援学生

児童生徒の端末操作の支援、各種設定作業の補助、休み時間の端末活用の見守り等、ICT活用に関するボランティアです。
*ICT授業をサポートする役割として活動する中で、現場の先生方のICT利用の利便性と困難さを理解しました。また、児童生徒とICT機器を通して触れ合う中でICT教育の在り方も考えることが出来ました。(科学教育 N.K)

◆地域学習アシスト

*1年間を通して同じ学校に支援に入り、子ども達の学習サポートを行う活動です。配属先での出来事や支援上の悩みを他の学生や教職大学院の先輩、現職の先生、大学の先生と共有できることがこの活動の一善の特徴であり、魅力です。教育実習では気づくことができない細かな支援方法や、教育現場の実態に触れながら活動することで「いざ自分が教師になったらどうするか」という教師としての視点を身につけることができます。(障害児教育 Y.S)

初年次学校園体験活動

*短い期間ながらも学校現場をリアルに体験できる素晴らしい機会です。大学で学んだ理論や知識を実際の現場で実感し、専門的な視点に気づくことができました。当日は、授業や児童生徒の様子を観察し、その場で感じたことについて友人や引率していた先生と即座に意見交換やフィードバックを行います。限られた時間の中で児童生徒とコミュニケーションをとったことで、教育現場の楽しさやフィードバックの面白さを感じました。(幼小発達教育 K.K)



2年次

観察実習

*計6回の観察実習を通じ、先輩方の授業をととても素晴らしいと感じました。そして、今の自分にはこのようなビジョンが見えないことに、友人たちと共に途方に暮れました。実習の大変さ以上に、来年の教育実習への不安が高まりましたが、先輩方からたくさんのアドバイスをいただき、今は不安とやる気の狭間にいます。迫る教育実習に向けて、まずはメンタルの強さを養おうと思いません。(言語教育 N.K)

*高齢者が利用するデイサービスで5日間実習を行いました。特に記憶に残っているのは、利用者さんとの毎日の「またね」です。1日一緒に過ごした後の「ありがとう。またよろしくね。」という言葉が嬉しくて、私たちも「またお願いします!」と全力で手を振りました。で、その様子が頭に残って寝られなかったと言われた時には思わず笑いましたが、5日間という長いような短いような時間は、とても濃い思い出です。(言語教育 R.O)

介護等体験実習



3年次

教育実習

*小学校と特別支援学校の教育実習はどちらも毎日楽しく、「明日も子どもたちに会いたい」と思っているうちに3週間が瞬く間に終わってしまいました。授業が思い通りにならず落ち込むこともあり、子どもたちにあった授業の進め方や教材・教具、どんな伝え方がいいかなどを考え直す日々でした。実感を踏まえて作成した教材を使用し、「授業分かったよ!」と言ってもらえた時はとても嬉しく、教師として働くやりがいを感じました。教育実習は色々なことに挑戦できるチャンスの場合だと思います。私にとって、将来を決めるためのかけがえのない経験となりました。(障害児教育 R.K)

*私は前期に附属小学校、後期に附属中学校で実習を行いました。最初は子ども達との距離感や授業を行うことへの不安がありました。しかし、この3週間ですぐ打ち解けることができました。授業も先生方からの指導をもとに行なったため、安心して授業実践を行うことができ、研究授業なども自信を持って授業に臨みました。実習を通して自分自身が教員になるというビジョンが浮かび、教員になりたいという気持ちが大きくなりました。(生活社会教育 Y.A)



4年次

1年次～4年次

教員採用試験に向けて

様々な教職支援が行われています。参加された方の合格率はとても高い状況です。

*教職支援室では、担当の先生が小論文と個人面接をマンツーマンで指導して下さいます。そのため、私の現状や課題にあったピンポイントのアドバイスをもらうことができ、指導のたびに成長することが出来ました。また、試験対策講座では、多くの先生から指導してもらうことができ、さらには様々な校種の学生と練習ができるため、自分の引き出しを増やすことができました。不安もありましたが、手厚い指導のおかげで合格することができました。(生活社会教育 K.T)

教職支援



教職キャリア・ポートフォリオ



教職大学院への進学

さらに学びを深めるために!

*教師としての力量を更に高めるために教職大学院への進学を決めました。大学院では、講義を通して多くの理論を学び、週に1回の実習を通して様々な授業実践等を行いながら研究を進めることができるなど、学部と比べ、より実践的で深い学びができる環境が整っています。また、様々な校種・教科が専門のストリートマスターや現職の先生方と交流する中で、新たな視点に気づき、視野を広げることができました。教職大学院を更なる高みを目指すための選択肢の1つにしたいだけだと思います。(教職大学院 M.W)



教職支援室等の講座受講生の声

- ◆学内模試
 - ・普段、一人で勉強していて、節目というものがつづけないため、模試は本当にありがたいです。解説も充実していて、勉強がはかどります。ありがとうございました。
 - ・勉強のモチベーションを高められました。
- ◆論文作成演習
 - ・論文文について全くイメージが持ていなかったのですが、具体的な書き方などを詳しく知ることができて非常に参考になりました。
 - ・論文文の文章構成の仕方や、なぜ論文が教員採用試験に課されるのかという話を聞くことができてよかったです。
- ◆二次試験対策講座
 - ・個人面接や模擬授業、場面指導など様々な対策について最終チェックできたこと、自分の課題点を見つけることができたのでよかったです。
 - ・先生方に助まっていたいただき、本番への意欲が高まりました。私の良いところや課題をたくさん聞いていただきとても勉強になりました。

Instagram
教職支援室
公式アカウント



教職支援室の
Instagram
フォローしてね!



■「令和6年度 期間採用者等研修（スキルアップ研修）」のご案内

令和6年度 期間採用者等研修(教師カスキルアップ研修)実施要項 — 山梨県教育委員会・山梨大学 連携事業 —

1 趣旨

研修の機会が充分でない期間採用教職員等や、教育に関する実践力を高めたい若手教員、学生・院生に対して、教育に関する基本的な理念、教職についての基本的な知識、さらには実践的指導力を身に付けるための研鑽の在り方等の基礎的な研修を行う。

2 主催

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

3 日時

令和6年5月18日（土）8：30～12：30

4 参加対象者

期間採用教職員・代替教職員など臨時的任用教職員、任期付教職員、育児のための任期付短時間勤務職員、非常勤講師などの会計年度任用職員、市町村任用教職員、若手教員、山梨大学の教員志望学生、山梨大学教職大学院の院生

5 会場

対面もしくはオンラインによるハイフレックス方式での開催

対面会場：山梨大学甲府西キャンパス（甲府市武田4丁目4-37）M-12 教室他

※ ご自宅や職場のパソコン等からもご参加いただけます。

6 次第・内容等

8：30～8：50 受付（オンライン入室許可）

8：50～9：00 開会行事（10分）

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター長 挨拶
受講上の注意

9：00～10：00（60分） 研修Ⅰ（全体会：全体研修）

「支援を必要とする児童・生徒も含めた人間関係づくり」

上嶋宏樹 先生 明見小学校 教諭

※令和6年度山梨県学校教育指導指針の趣旨をふまえ、校種を越えて、特別支援教育に関する専門性を高め、多様な学びの場における教育の充実に努めることをねらいます。様々な個性を持った子どもたちの人間関係づくりをテーマとしました。

休憩（中学校・高等学校分科会参加者は、研修2の会場へ移動（別IDで再ログイン）してください。）

10:10～11:10 (60分) 研修2 (校種別分科会：授業づくり研修)

「児童・生徒をひきつける授業の工夫」

小学校	雨宮 康治 先生	大里小学校	教頭
中学校	宮下 昌久 先生	下吉田中学校	教諭
高等学校	本多 哲也 先生	農林高等学校	教頭

※児童・生徒をひきつける授業作りのヒントについて、教科を越えて考えます。

休憩 (研修3は、研修2の会場 (ID) で引き続き行います。)

11:20～12:20 (60分) 研修3 (校種別分科会：学級経営研修)

「児童・生徒理解と学級・ホームルームづくりのヒント」

小学校	村田 利恵先生	長坂小学校	教頭
中学校	古屋 秀輝先生	塩山中学校	教諭
高等学校	高鳥 亮太先生	多様性社会・人材活躍推進局 労政人材育成課 主幹	

※生徒理解の方法や誰もが悩む学級経営について、校種別に考えます。

12:20～12:30 閉会行事 (10分)

※ 別途提示する QR コードを利用したアンケートに回答いただきます。

講師は、山梨県教育委員会や総合教育センターにて、現在ご活躍中か、ご活躍された皆様です。

7 申込み方法：WEB申込

申込期限 5月14日(火) 次のQRコード (Formsリンク) からお申込みください。

申し込みアドレス <https://forms.office.com/r/AWXDB2rP5S>



(申し込み後5月16日(木)までにご案内がない場合は、お手数ですが下記までご連絡ください。)

担当	山梨大学教育学部 附属教育実践総合センター
教授	萩原 佳子 (はぎはら よしこ)
	yoshiko.h@yamanashi.ac.jp 055-220-8112



—山梨大学・山梨県教育委員会連携事業—
期間採用者等研修
 (教師カスキルアップ研修)

明日につながらる!

5/18sat

対面・オンラインの同時開催です。

対面会場 山梨大学甲府西キャンパス

研修1から3いずれも単独で受講することも可能です。

9:00~10:00

研修1 (全体会)

支援を必要とする
 児童生徒も含めた
 人間関係づくり

上嶋宏樹 先生 明見小 教諭

校種を越えて学ぶべき、
 具体的な人間関係づくりの
 方法がテーマです。

10:10~11:10

研修2 (校種別分科会)

児童・生徒を
 ひきつける
 授業の工夫

小 雨宮康治 先生 大里小 教頭
 中 宮下昌久 先生 下吉田中 教諭
 高 本多哲也 先生 農林高校 教頭

児童・生徒をひきつける
 授業作りのヒントを
 教科を越えて考えます。

11:20~12:20

研修3 (校種別分科会)

児童・生徒理解と
 学級・チームづくり
 のヒント

小 村田利恵 先生 長坂小 教頭
 中 古屋秀輝 先生 塩山中 教諭
 高 高鳥亮太 先生

多様性社会・人材活躍推進局
 労政人材育成課 主幹

生徒理解の方法や誰もが
 悩む学級経営について、
 校種別に考えます。

教壇に立つすべての方へ

<https://forms.office.com/r/AWXDB2rP5S>

この研修は山梨県教育委員会と山梨大学の連携事業です。
 期間採用の方・教師としての力量を高めたい方、ぜひご受講ください。

【主催】 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター
 【申込み】 右のQRコードからお申込みください。申込期限5月14日(火)
 【お問合せ】 担当 yoshiko.h@yamanashi.ac.jp



令和6年度

子どもと教師の成長を結ぶ 教育評価研修会

—OPP シートによる学習・指導と評価の一体化—

学習・指導と評価の一体化を可能にし、授業方法の改善につなげていくための方法であるOPPA（1枚ポートフォリオ評価法）についての研修会です。

OPPAの基礎的な理論や事例紹介を踏まえた上での実践的な演習、加えて本年度は1人1台端末の活用についてのワークショップ、ICT活用事例の報告からのディスカッション等、ICTと指導と評価を絡ませた研修を予定しています。

初めての方だけでなく、これまで受講された方にも広く対応できる研修となっています。

【日時・会場】

○ 中北会場：令和6年8月8日（木）

北巨摩合同庁舎 401 会議室 13:30~16:40
OPPA 概要説明と理論編 13:30~14:10
OPPA 実践編 14:20~16:40

○ 峡東会場：令和6年8月9日（金）

東山梨合同庁舎 101 会議室 13:30~16:40
OPPA 概要説明と理論編 13:30~14:10
OPPA 実践編 14:20~16:40

【講師】法政大学生命科学部生命機能学科 教授 辻本 昭彦 氏

【司会】山梨大学教育学部長 服部 一秀

【参加費】無料

【対象者】小・中・高・特別支援学校の「やまなし教員等育成指標」第1~3ステージの教員

【主催】山梨大学教育学部 【共催】山梨県総合教育センター

【申込み】本年度より、5年経験者研修（小中高特教諭）の「学習指導研修会」（選択研修）としての受講が可能です。本研修は、山梨県総合教育センターの研修一覧に「外部共催 No.5011 研修」として組み込まれていますので、申し込みは山梨県総合教育センターHPで行ってください。なお、期限後の申込については、山梨県総合教育センター研修指導課に直接ご相談ください。

【申込期限】6月12日（水）

【問い合わせ先】 山梨大学教育学域支援課総務グループ TEL:055-220-8103
山梨県総合教育センター研修指導課 TEL:055-262-5871
e-mail:藤原課長 <chifuji@kai.ed.jp>

どちらの会場も研修内容は同じです。
都合の良い方にお申込みください。



■ 6・7月の主な行事予定

6～7月の 行事予定

山梨大学教育学部の
関係行事を含みます

高等学校「情報」免許法認定講習

○申込み開始予定 6月～

※文部科学省に申請中のため変更の可能性あり。続報は、情報教育推進室HPIにてお知らせします。

教師塾プログラム

○後期実習前教師力養成講座

7月17日（水）・・・3年全員

教員採用試験対策講座

○二次試験対策講座2

6月4日（火） } 今年度教採受験者

6月5日（水） } ※同一内容のため、どちらか一日に参加

○一次試験最終対策講座

6月11日（火）・・・今年度教採受験者

○スキルアップ講座4 ～ICT教育～

7月12日（金）・・・今年度教採受験者全員

○教員採用試験スタートガイダンス1

7月17日（水）13：00【1部】・・・3年、M1、次年度教採受験者

15：00【2部】・・・2年、次年度教採受験者

○ブラッシュアップ講座1 ～個人面接～

7月23日（火）・・・一次試験合格者全員

○ブラッシュアップ講座2 ～模擬授業・集団面接～

7月25日（木）・・・一次試験合格者全員

○二次試験直前対策講座

7月30日（火） } 一次試験合格者

8月1日（木） } ※同一内容のため、どちらか一日に参加

進路支援

○2年生学生面談

6月5日（水） } 2年全員。コースごとに指定した日に実施

6月12日（水） } 2年全員。コースごとに指定した日に実施

6月19日（水） } 2年全員。コースごとに指定した日に実施